

校長室だより

3月号

3月7日。高等部の卒業式を行いました。一日の「式」ではありますが、卒業生にとっては、3年間、そして12年間の学校生活の「ラストレッスン」。大切な大切な日。この日までいっぱいお話をしましたが、これまで関わり寄り添ってきた教職員を代表して校長から送ったラストメッセージ（式辞）です。

そっと目を閉じれば、三年生のみなさんと過ごした時間と笑顔がまぶたに浮かびます。春の訪れを間近に感じる季節。三月七日。ついにやって来たこの日。いつの間にか時が過ぎ、今日、卒業の日となりました。今日のよき日、高等部八名の卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。保護者の皆様方にも心からお祝い申し上げます。また、卒業式を挙行するにあたり、ご来賓の皆様方には、ご多用の中、ご臨席を賜りましたこと、職員を代表いたしまして、深くお礼申し上げます。

さて、先ほど卒業生のみなさんに卒業証書をお渡ししました。この卒業証書には、みなさんの本校での学校生活の大きな頑張りと思い出が限りなくつまっています。私も心を込めてお渡ししました。

今、こうして向かい合うと、皆さんのたくましく、立派になった姿に、私自身、この上ない喜びでいっぱいです。振り返れば、「辛い時もあった」、「失敗もした」、「負けたこともあった」、「悔しかった」「我慢もした」「でもがんばった」、その一つ一つを乗り越えてきた努力が、今、みなさんの立派な姿です。そして「力」です。三年間の月日。そして十二年間の学校生活。一人一人ががんばったこと、しんどかったことは全員が違うでしょう。思いっきり喜んだこと、みんなで笑い合ったこと、時に悩んだことなど、いっぱいあったことと思います。素直になるのをためらって自分じゃない自分を演じたこともあったかもしれません。この三年間で、数え切れないほどのたくさんの経験を積み、学習し、思い出ができたことでしょう。一緒に行った沖縄への修学旅行。国際通りで悩み迷ったお土産選びや思わず買って食べたスイーツの味は忘れられないことでしょうね。珊瑚礁の輝く青い海は心ときめきました。運動会のグンスは、いつも中心となってみんなを引っ張ってくれました。毎日の学校生活では悩んだ日、辛かった日、自信がなかった時もたくさんあったことと思います。勇気をもって一歩前へ進みできた喜び、「失敗から学んだ経験」、「やりきった満足感」、「人の役に立った達成感」は宝物です。現場実習報告会で自分の考え、自分自身を見つめて発表できたプレゼンは、何より感動しました。とっても嬉しかったです。学校のために取り組んだ清掃活動や行事の準備片付けも素敵なみなさんの姿そのものでした。自分の頑張りすべてが、これからのみなさんの「生きる力」につながると確信しています。本校で作った、人と人とのつながり。関わり方やその関係は違っても、人と人とは絶対につながっています。人と人とはかけがえのない、心と心のつながりだと思います。これから新たな自分だけの道を歩きます。失敗してもいい。自分を信じて、自分が選んだ道、自分だけの道、自分のための道です。道を迷いそうになっても支えてくれる人は必ずいます。一緒に歩いてくれる人もいます。自分にとってたとえ細くて小さな道であっても、小さなつぼみであっても、信じた道を歩み、最高に美しい素敵な花を咲かせて下さい。卒業の日まで、みなさんを見守り育てていただいた家族に「感謝」の気持ちを忘れないで下さい。そして、今日まで、はにかみながらも、ちょっとしんどくても顔を合わせてニコッと笑って挨拶してくれた八名の卒業生。みなさんと出会えて本当に幸せです。私からも感謝の気持ちでいっぱいです。（中略）

いつもリーダーシップをとりながらも後輩と仲良く後輩思いの八人。いつも笑顔でノリノリグンスが得意。でもちょっぴり照屋さんの八人。いつも教室を明るく学校を明るくみんなの心を和ませてくれた八人。

卒業生八名の皆さんの限りない「ご健康」と「ご活躍」をお祈りし、みなさんの蕾がこれからも膨らみ続け、やがて幸せの花をいっぱい咲かせてくれることを願っています。いつまでも「幸せ」でいてください。